

# 福島第二原子力発電所からのお知らせ（平成28年12月号）

1～4号機は、燃料の安定冷却を継続しています。発電所の最新状況や、様々な取り組みをお知らせします。

## 11月22日に発生した地震の対応の振り返りについて

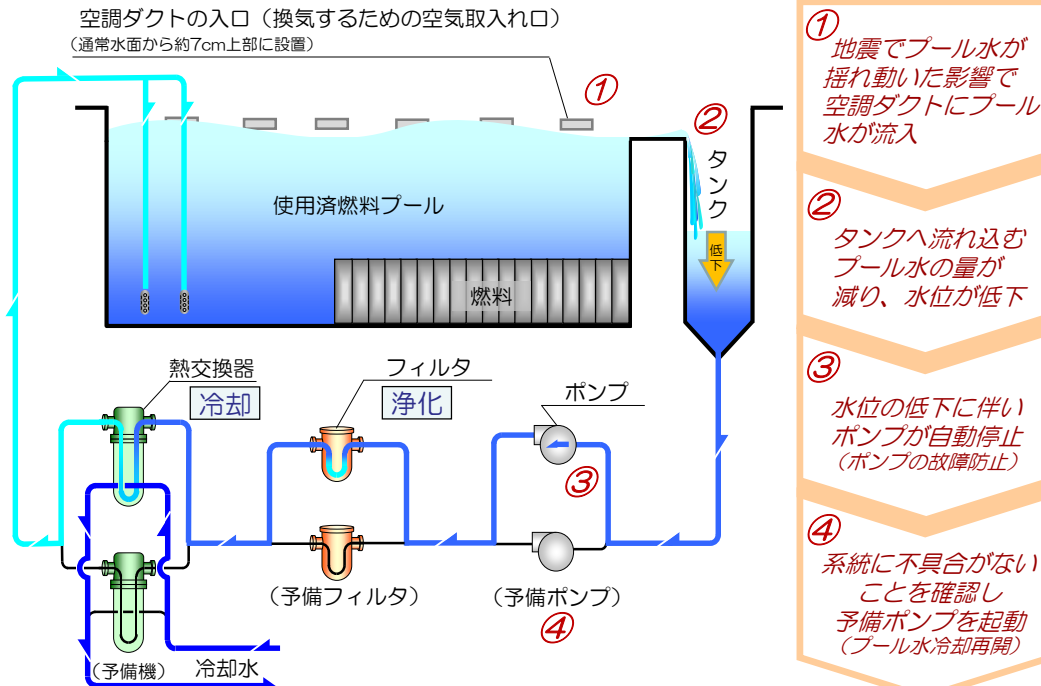
11月22日に発生した地震（最大震度5弱）では、3号機の使用済燃料プールを冷やす系統のポンプが停止したため、プール水の冷却が一時停止しました。地域の皆さまをはじめ、広く社会の皆さまにご心配をおかけしましたことを、心よりお詫び申し上げます。

当社は、今回の地震の対応を振り返り、改善点と今後の対応についてとりまとめました（12月8日公表）。引き続き、燃料の安定冷却に努めるとともに、より迅速かつ分かりやすい情報発信に取り組んでまいります。

### ■燃料冷却の仕組み

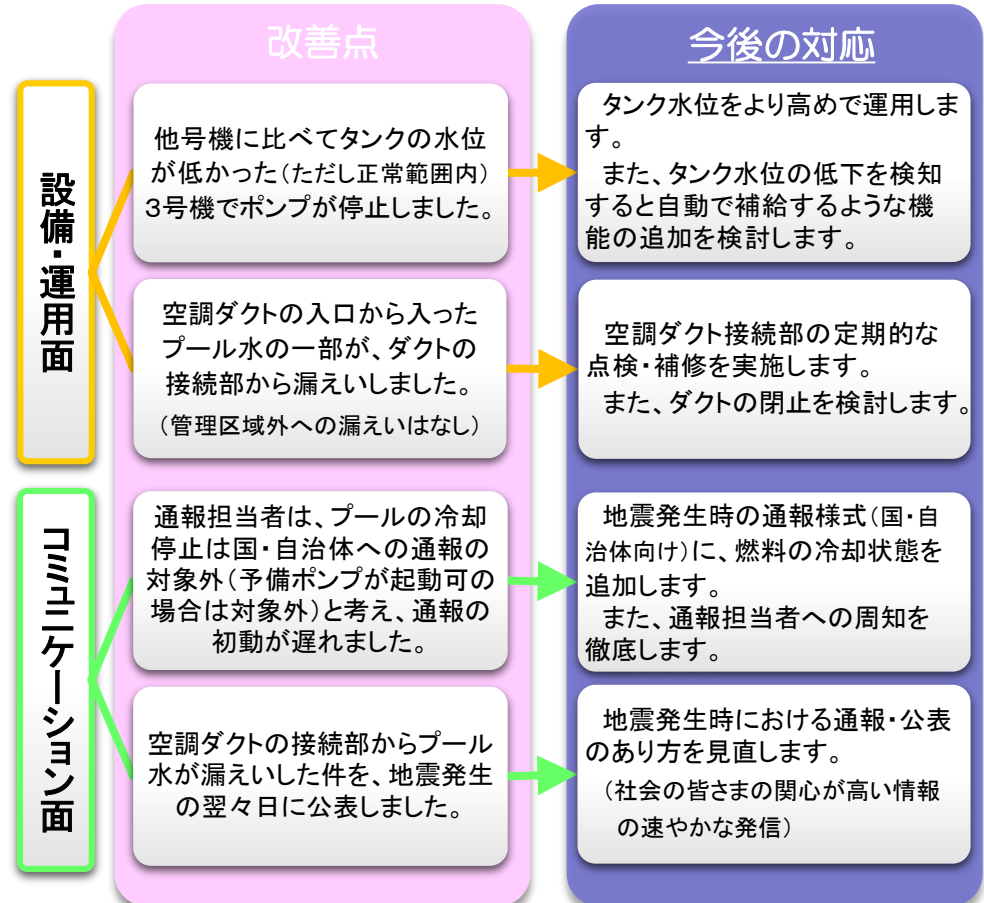
燃料からの熱で温められたプール水は、隣のタンクに流れ込み、ポンプで循環させて、浄化と冷却をした後、プールに戻します。使用済燃料プールは、ステンレスで内張りされており、壁や底に水の取出口がないため、水が抜けない構造になっています。

### ■ポンプが停止した経緯



プール水の冷却再開（約100分間）までの水温の上昇は0.2℃（29.3℃→29.5℃）でした。

### ■改善点と今後の対応



## 2号機の圧力抑制室内の定期点検が終了しました

- 2号機の圧力抑制室内\*の内面および構造物について、水中カメラを使用した外観目視点検を実施しました（10月25日～12月2日）。
- 圧力抑制室内の内部側面に1か所、腐食によるくぼみを確認しており（直径約9.5mm、深さ約3.7mm）今後、原因について調査するとともに、補修を行います。
- それ以外の点検対象について、点検および補修塗装を実施し、圧力抑制室の機能に支障を及ぼすおそれがないことを確認しました。

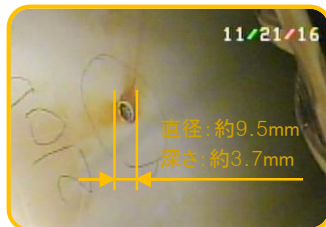
### <点検イメージ>



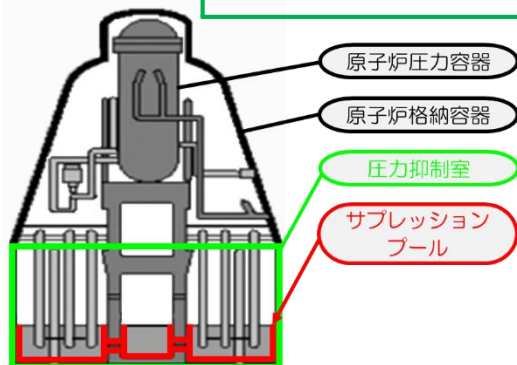
**スパージャー**  
(原子炉の蒸気を排気する管)



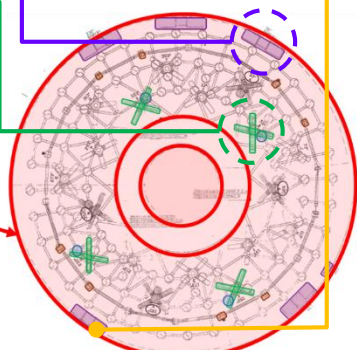
**ストレーナ**  
(金網状のフィルタ)



腐食が確認された箇所



原子炉格納容器 断面図（概略図）

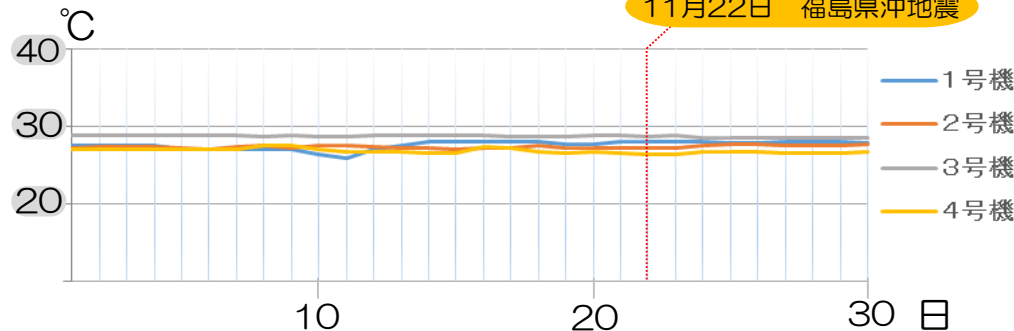


圧力抑制室 平面図

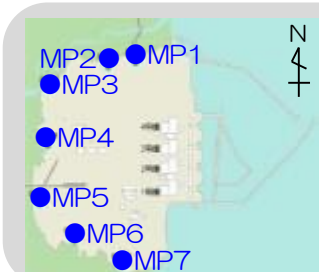
\* 圧力抑制室  
原子炉格納容器の下部にあり、原子炉圧力容器の圧力が上昇した場合にその蒸気を圧力抑制室内に導いて、ためている水で冷却（凝縮）することで原子炉の圧力を低下させる設備です。

## 燃料の冷却状況(11月分)

使用済燃料プール水の温度は、30℃程度で推移しており、燃料を安定的に冷却しています。



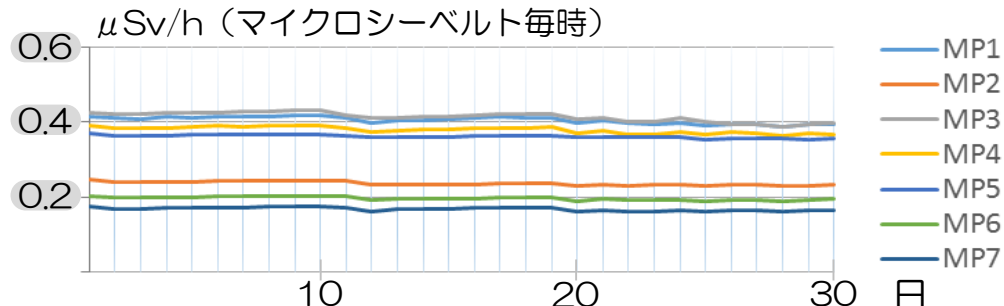
## 発電所周辺の放射線量計測状況(11月分)



構内に設置している全7基のモニタリングポスト(MP)により、敷地周辺における空気中の放射線量の測定を常時行っています。

### ◇天気と放射線の関係

空気中の放射線量は、天気によって変動します。一般に、雨が降ると空気中の放射性物質が地表に落とされ放射線量が上昇します。一方、雨による水たまりや積雪ができると、大地からの放射線が水や雪によって遮られ放射線量が低下します。



使用済燃料プール水温度やモニタリングポストのこれまでの計測状況については、当発電所ホームページをご覧ください。

ホームページURL  
<http://www.tepco.co.jp/nu/f2-np/index-j.html>

